

(14) ダイコン  
ア 殺菌剤

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名											注意事項		
				亀裂褐変症 R	黒斑細菌病	黒斑病	白さび病	炭疽病	苗立枯病 P	苗立枯病 R	軟腐病	べと病	黒腐病				
アミスターオプティフロアブル	アゾキシストロビン・TPN	混合剤	11・M05				◎										
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	ストロビリン	11				◎										
オーソサイド水和剤80	キャプタン	その他	M04							野	野						野：【野菜類登録】
カスミンバリダシン液剤	カスカマイシン, ハリタマイシン	混合剤	24, U18									◎					
カスミンボルドー	カスカマイシン・塩基性塩化銅	混合剤	24・M01		◎							◎					薬害の恐れがあるので、高温時の使用には注意する。
カセット水和剤	オキソニック酸・カスカマイシン	混合剤	31・24		◎							◎					
コサイド3000	水酸化第二銅	無機殺菌	M01				◎					野		野			野：【野菜類登録】
サンボルドー	塩基性塩化銅	無機殺菌	M01										◎				
スターナ水和剤	オキソニック酸	その他	31									◎					
ダコニール1000	TPN	その他	M05				◎	◎									
ドイツボルドーA	塩基性塩化銅	無機殺菌	M01									野	野				野：【野菜類登録】
バシタック水和剤75	アミド	アミド	7	◎								◎					
ハチハチ乳剤	トルフェンピラト	その他	39				◎										
バリダシン液剤5	ハリタマイシンA	抗生物質	U18									◎					
バリダシン粉剤DL	ハリタマイシン	抗生物質	U18	◎													
ピシロックフロアブル	ピカルブトキサス	その他	U17				◎										
フジドーLフロアブル	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01		◎		◎										
フロンサイド粉剤	フルアジナム	その他	29	◎													
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	抗生物質	41									◎					
マスタピース水和剤	シュートモナスロテシア	生物農薬	NC		◎							◎					
マテリーナ水和剤	オキソニック酸・ストレプトマイシン	混合剤	31・25									◎					連用すると薬に薬害を生じる恐れがあるので、高温時の使用は注意する。
モンカット水和剤	フルトラニル	アミド	7									野					野：【野菜類登録】 種子処理機による種子粉衣。
ユニフォーム粒剤	アゾキシストロビン・メタラキシルM	混合剤	11・4				◎										
ヨネポン水和剤	ニルフェノールスルホン酸銅	有機銅	M01		◎		◎					◎					
ライメイフロアブル	アミスフロム	その他	21				◎										
リゾレックス粉剤	トルクロホスチル	有機リン	14	◎													
乙ボルドー	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01		野		◎					野	野	野			野：【野菜類登録】

注) 亀裂褐変症, 苗立枯病の対象病原菌の表記 P : Pythium, R : Rhizoctonia

(14) ダイコン  
イ 殺虫剤

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病害虫名										注意事項		
				ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	タ マ ナ ダ ギ ン ウ ワ バ	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ア オ ム シ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	(ダイ コン サル ハム シ)		ダ イ コ ン ハ ム シ	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類
アクセルフロアブル	メフルミゾン	その他	22B			◎			◎				◎	◎		
アクセルベイト	メフルミゾン	その他	22B					◎								
アグロスリン水和剤	シベルメトリン	ヒレスロイト	3A	◎	◎				◎		◎					
アタブロン乳剤	クロルフルアスロン	IGR	15		◎				◎	◎	◎	◎				
アデイオン乳剤	ベルメトリン	ヒレスロイト	3A	◎	◎	◎			◎		◎		◎			
アドマイヤー1粒剤	イタダクプロット	ネコチノイト	4A	◎												
アドマイヤーフロアブル	イタダクプロット	ネコチノイト	4A	◎												
アニキ乳剤	レビメクチン	マクロライト	6		◎	◎					◎					
アフアーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩	マクロライト	6		◎	◎					◎					
アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニプロール	混合剤	4A・28	◎	◎	◎					◎	◎				
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	ネコチノイト	4A	◎								◎	◎			
スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	ネコチノイト	4A	◎								◎				
アラバリン粒剤	ジノテフラン	ネコチノイト	4A	◎								◎				
ウララD F	フロニカミド	その他	29	◎												
エコマスターBT	BT	生物農薬	11A		野	◎			野	野	野					野:【野菜類登録】
エスマルクD F	BT	生物農薬	11A		野	◎			野		野					野:【野菜類登録】
エルサン乳剤	PAP	有機リン	1B	◎	◎	◎			◎	◎	◎					
オルトラン粒剤	アセフェート	有機リン	1B	◎	◎						◎					
カスケード乳剤	フルフェノクスロン	IGR	15		◎	◎					◎					
カルホス粉剤	イソキサチオン	有機リン	1B					◎								
グレーシア乳剤	フルキサメタミド	その他	30		◎	◎					◎	◎				
コテツフロアブル	クロルフェナピル	その他	13		◎						◎		◎			
コナガコン	ダミアモリア	フェロモン			◎											【作物指定無し】
コンフューザーV	アルミゲルア・ウワハルア・タミアモリア・ヒートアミリア・リトルア	フェロモン			野		野		野	野						野:【野菜類登録】 コンフューザーVは適当な長さの支柱に4本取り付け、圃場全体に配置し、取り付け位置は地上50~60cmとする。
スピノエース顆粒水和剤	スピノサト	スピノシン	5		◎						◎	◎				
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A		野				野	野	野					野:【野菜類登録】
ダイアジノン粒剤5	ダミアシン	有機リン	1B					◎				◎				
ダーズバン粒剤	クロルピリホス	有機リン	1B									◎				



農 薬 名	成 分 名	系 統 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項			
				ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	タ マ ナ ギ ン ウ ワ バ	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ア オ ム シ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	ダ イ コ ン サ ル ハ ム シ ( <small>ダイコンサルハムシ</small> )		ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	
マブリック水和剤 20	フルバ <sup>®</sup> リネート	ピレスロイド <sup>®</sup>	3A	◎	◎					◎	◎	◎					
マラソン乳剤	マソン	有機リン	1B	◎							◎						
モスピラン粒剤	アセタミプリト <sup>®</sup>	ネニコチノイド <sup>®</sup>	4A	◎	◎												
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリト <sup>®</sup>	ネニコチノイド <sup>®</sup>	4A	◎	◎						◎	◎	◎				
ラグビー M C 粒剤	カズ <sup>®</sup> サス	殺線虫	1B									◎		◎	◎		
ランネート 45 D F	メソミル	カーバメート	1A	◎	◎	◎					◎						
リーフガード顆粒水和剤	チオンクラム	ネライストキシン	14	◎	◎	◎					◎	◎					



(14) ダイコン  
エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カーバムトリウム塩	8F	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止	
			前作のイチゴのネグサレセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止	
			前作のナスのフザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のねぎの収穫残渣に寄生したクロバネキノコバエ類蔓延防止	
			前作のキュウリの褐斑病の蔓延防止	

## オ 病害虫防除法（ダイコン）

### （ア）青枯病 *Ralstonia solanacearum*

#### （防除のねらい）

病原菌は土壌中で5年以上生存し、根の伸長で自然にできる傷口などから入る。気温の高い時期に発生が多く、排水不良、窒素過多などで助長されるので総合的に対策を講ずる。

#### （耕種的防除法）

- （1）8月中下旬の早播きを避ける。
- （2）発病地では連作を避け、青枯病の発病しない作物を間作する。
- （3）窒素肥料を減じ、カリ肥料を十分施す。また、完熟堆肥を十分に施す。
- （4）排水対策を徹底する。
- （5）発病した株は、土壌を他に落とさないよう留意して、ほ場外に除去する。

#### （化学的防除法の注意事項）

土壌消毒を徹底し、消毒後のほ場内へ病原菌を持ち込まないよう留意する。

### （イ）萎黄病 *Fusarium oxysporum f.sp.raphani*

#### （防除のねらい）

病原菌は土壌中で越冬し、土壌伝染する。本病は生育中の防除が困難であるので、土壌消毒及び耕種的防除に重点を置く。

#### （耕種的防除法）

- （1）連作を避け、多発ほ場は数年間、アブラナ科野菜の作付けをしない方がよい。
- （2）播種後1か月の平均気温が25℃以上の時に被害が大きいため、秋まき栽培は可能な限り播種を遅らせる。
- （3）石灰を施用する。

#### （化学的防除法の注意事項）

土壌消毒を徹底し、消毒後のほ場内へ病原菌を持ち込まないよう留意する。

### （ウ）根腐病 *Rhizoctonia solani* ・亀裂褐変症 R *Rhizoctonia*

#### （防除のねらい）

病原菌は罹病残渣や菌核で土中に残る。夏ダイコンで多雨期に発生が多く、初期は苗立枯れを起こし、根部には亀裂褐変症状を起こす。罹病残渣の処分を努めて行うようにする。

#### （耕種的防除法）

- （1）連作を避ける。
- （2）ほ場の排水対策を徹底する。

### （エ）黒斑細菌病 *Pseudomonas syringae pv.maculicola*

#### （防除のねらい）

#### （耕種的防除法）

}] ハクサイの項参照

### （オ）黒斑病 *Alternaria brassicae*, *A. brassicicola*, *A. japonica*

#### （防除のねらい）

#### （耕種的防除法）

}] ハクサイの項参照

### （カ）白さび病 *Albugo macrospora*

#### （防除のねらい）

被害植物組織内に卵孢子や菌糸の形で生存して伝染源となり、胞子のうが飛散して伝染する。発病適温は10℃前後で、冷涼で降雨が続く時に多発生するため、発生源の除去、発病に好適な時期の予防防除に努める。

#### （耕種的防除法）

- （1）連作を避け、アブラナ科以外の作物と輪作する。
- （2）ほ場の排水対策に努める。
- （3）発病葉は除去し、収穫後に残った被害茎葉は持ち出し処分する。

(キ) 炭疽病 *Colletotrichum higginsianum*, *C. capsici*

(防除のねらい)

被害植物組織や種子に、菌糸や分生子の形で付着、または寄生して生存し、伝染源となる。分生子が飛散して伝染し、8～10月にかけて発生する。まず土壤消毒を徹底して、栽培環境に菌を持ち込まず、ほ場での炭疽病の伝染環を絶つことをねらう。

(耕種的防除法)

- (1) 健全な種子を使用する。
- (2) ほ場の額縁部分を含め、除草に努める。
- (3) 夏季の作型で発生が多く認められるので、多発ほ場ではこの時期の栽培を避ける。
- (4) 連作を避け、ほ場の排水対策に努める。
- (5) 発病の激しい株や発病葉は除去し、収穫後に残った被害茎葉はほ場外に持ち出し処分する。

(ク) 苗立枯病 *Pythium* sp., *Rhizoctonia* sp.

(防除のねらい)

発芽前立枯れを起こすこともあるが、一般には幼苗期を中心に侵される。被害残渣や雑草の根圏に潜み、土壤伝染し、高温、多湿時に多く発生がみられる。発生源を取り除く等、耕種的防除に重点を置く。

(耕種的防除法)

- (1) ほ場内に残渣を残さず、除草に努める。
- (2) ほ場の排水対策を徹底する。

(化学的防除法の注意事項)

病原菌により登録薬剤が異なり、適正な薬剤以外は効果が期待できないため注意する。

(ケ) 軟腐病 *Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

(化学的防除法の注意事項)

} ハクサイの項参照

(コ) 根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

} ハクサイの項参照

(サ) パーティシリウム黒点病

(防除のねらい)

病原菌は罹病残渣や菌核で土中に残る。菌核は根圏で発芽し、根に侵入して維管束部を黒変させる。種子伝染、土壤伝染する。土壤消毒及び耕種的防除に重点を置く。

(耕種的防除法)

- (1) 連作を避ける。
- (2) ほ場の排水対策を徹底する。
- (3) ほ場周辺の寄主植物を除去する。

(シ) ベと病 *Peronospora parasitica*

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

} ハクサイの項参照

(ス) 黒腐病 *Xanthomonas campestris* pv. *campestris*

(防除のねらい)

土壤伝染性の病害で土中や種子に菌が存在し、害虫の食害痕などの傷から侵入して腐敗させる。薬剤の効果がでにくい病気なので、輪作やほ場の衛生管理を重点とする。

(耕種的防除法)

- (1) 腐敗株を除去する。収穫後に残った茎葉は持ち出し処分する。
- (2) マメ科、イネ科との輪作をする。
- (3) 食葉性害虫の防除を徹底する。



**(セ) 根くびれ病 *Aphanomyces raphani***

**(防除のねらい)**

病原菌は土中に生存し、ダイコンを始め、広くアブラナ科作物を侵す。4～7月頃の高温期に生育するもので多く発生し、初期は根くびれを起こし、後に根部には横溝状亀裂褐変症状を起こす。高温多湿条件での栽培にならないよう注意する。

**(耕種的防除法)**

- (1) 高畦などして排水を良くする。雨よけ栽培もよい。
- (2) 高温期の栽培を避ける。
- (3) アブラナ科作物の連作を避ける。

**(ソ) モザイク病 TuMV, CMV**

**(防除のねらい)**

モザイク病はカブモザイクウイルス(TuMV)とキュウリモザイクウイルス(CMV)により引き起こされ、主としてTuMVによって発病する。いずれもアブラムシにより媒介され、幼苗期に感染すると被害が大きいため、アブラムシの防除・飛来防止策が最も重要である。また、発病株の抜き取り等、発病初期の伝染防止対策に留意する。

**(耕種的防除法)**

- (1) 多発地域、秋作では早播きを避ける。
- (2) 陸稲、そば、飼料作物等を間作する。
- (3) シルバーマルチ、シルバーストラップマルチを使用する。
- (4) 地力の増進に努める。

**(タ) アブラムシ類**

**(防除のねらい)**

**(耕種的防除法)**

】 ハクサイの項参照

**(チ) コナガ**

**(防除のねらい)**

キャベツの項参照。ダイコンは幼苗期の発生に注意する。

**(ツ) ハイマダラノメイガ (シンクイムシ)**

**(防除のねらい)**

秋播きでの被害は、8月上～中旬と9月に羽化する世代によるものが多い。夏季が高温、少雨で地温の高い年に多発生するので、干ばつ年には発生に注意する。薬剤散布は本葉が出はじめるころから行う。

**(耕種的防除法)**

8月播きのダイコンはできるだけ遅く播く。

**(テ) タマナギンウワバ**

**(防除のねらい)**

ハクサイの項参照。

**(ト) ネキリムシ類**

**(防除のねらい)**

ハクサイの項参照。ダイコン、カブでは幼植物の被害が大きいため防除は播種時に重点を置く。

**(ナ) ヨトウムシ (ヨトウガ)**

**(防除のねらい)**

春(4～5月)と秋(10～11月)に発生する。薬剤は老齢幼虫に対して効果が劣るので、防除は発生初期(白い食痕が見え始める頃)に行う。

**(ニ) ハスモンヨトウ**

**(防除のねらい)**

ハクサイの項参照。

**(ヌ) アオムシ (モンシロチョウ)**

**(防除のねらい)**

キャベツのモンシロチョウの項参照。

**(ネ) コガネムシ類**

**(防除のねらい)**

成虫は葉を食害するが、幼虫は土壤中で根を食害し、根表皮に食害痕が見られ等、被害が大きい。被害時期は、種によって違いはあるが、8～9月に激しい。産卵時期は6～9月、幼虫を主体に防除を行う。

**(耕種的防除法)**

- (1) コガネムシ類の産卵を誘引するような未熟な有機物等を多量に施用しない。
- (2) 冬期のプラウ耕等による幼虫の密度低下。

**(ノ) キスジノミハムシ**

**(防除のねらい)**

被害は春、夏ダイコンで主に問題となる。また、秋作大根でも加害が著しい場合もある。アブラナ科野菜の栽培地域、連作地、暖冬及び6～7月に雨が少ないと多発する傾向がある。防除は播種後20～30日までが鍵となり、防除効果は幼虫加害を防ぐための土壌殺虫剤の施用と産卵防止のための薬剤散布を併用すれば高い。

**(耕種的防除法)**

シルバーマルチ、シルバーストライプマルチは幼虫食害防止効果がある。

**(ハ) ダイコンサルハムシ**

**(防除のねらい)**

成虫・幼虫がアブラナ科野菜の葉を食害し、秋期の被害が多い。成虫は飛ばず、歩行により移動し、土中にいる。成虫の寿命は長く、成虫で越冬し、春から初夏に産卵するとみられ、産卵量も多い。防除は、成虫・幼虫が行動している時期を対象に行う。

**(耕種的防除法)**

- (1) アブラナ科野菜の連作はしない。
- (2) 飛翔できないことから、越冬場所となるアブラナ科野菜ほ場からある程度距離を置く。
- (3) ほ場周辺の寄主植物(アブラナ科)を除去する。

**(ヒ) ネコブセンチュウ類・ネグサレセンチュウ類**

**(防除のねらい)**

サツマイモのセンチュウ類の項参照。